

西洋だこと六角だこ

小川未明

青空文庫

年郎としろうくんは、自分の造つくった西洋せいようだこを持つて、原はらつぱへ上げにいきました。

原はらつぱには、木きがなかつたから、日ひがよく当あたつて、そのうえ、邪魔じやまになるものもないので、すこしの風かぜでもたこはよく上あがりました。

きよ子こさんに、たこを持つていてもらつて、年郎としろうくんは、「いいよ。」と、あちらから合あいずず図ずをして、放はなしてもらうのです。風かぜがあると、たこはおもしろいように、ぐんぐんと空そらへ上あがるのでした。広ひろい原はらつぱには、おおぜいの子供こどもたちがきて同おなじように、いろいろの絵えだこや、字じだこを上あげていました。

「僕ぼくのが、一番ばんだこだよ。」と、威張いばっているものもあれば、それに負けまいと思おもつて、糸いとをどんどん繰くり出だしているものもありました。

年としろう郎ろうくんは、どうも自分じぶんの造つくつた西洋せいようだこが、調ちようし子しが悪わるかつたのです。尾おを長ながく長ながくしなければ、すぐにくるくるまわつて落おちてしまふし、あまり尾おを長ながくすると、重おもくて、なかなか上うえへはあがらないのでした。

「だめよ、年としろう郎ろうさん、こんなに尾おを長ながくしては。」と、とうとうきよ子こさんは、しびれを切きらして、いいました。

年としろう郎ろうくんは、うらめしそうに空そらを仰あおいで、ほかのたこがよく上あがっているのをぼんやりとながめたのです。

「あ、あの六角かくだこは、僕ぼくのによく似にているなあ。」と、遠とおくの方ほうで、知しらない子こが上あげているたこを見みつけていいました。

「どのたこ？」と、きよ子こさんも、年とし郎ろうくんが、ながめているそらそら方ほうを見みたのです。なるほど、年とし郎ろうくんの大だい事じにしていた六角かくだこが上あがっています。真まん中なかにどろがついているのや、尾おに赤あかいひもと白しろいひもがついているのや、すべてに見み覚おぼえがありました。

「どうしたんでしようね。」と、きよ子こさんは、目めをみはりました。

「飛とんでいった僕ぼくのたこを拾ひろったのだと思おもうよ。」と、年とし郎ろうくんは、自じ分ぶんの上あがらない西せい洋ようだこのことなど忘わすれてしまつて、

ただ熱心ねっしんによく上あがつている六角かくだこを見つめていました。そして、このあいだ、糸いとが切れて、飛とんでいったたこは、とうとう追おいつかれなくて、町まちの方ほうへ落おちてしまったのを思おもい出だしていました。

「なんだか年としろう郎ろうさんのたこらしいわね。」と、きよ子こさんが、いいました。

「きつと、僕ぼくのたこだよ、あの子こ、拾ひろったのだ。」

「年としろう郎ろうさん、きいてごらんなさい。」

「だって、ちがうと悪わるいな。」と、年としろう郎ろうくんは、考かんがえていたのです。

「尾おもよく似にているわ。」

こう、きよ子さんがいったので、年郎くんは、ついに、その子供こどものそばへいつて聞いてみる気きが心こころの中なかに起おこつたのでした。

年郎としろうくんときよ子こさんは、六角かくだこを上げあげている子供こどものころへきました。そして、年郎としろうくんは、

「このたこ、どこかで拾ひろつたのでない？」と、その子供こどもにききました。

たこを上げあげていた子供こどもは、わざと年郎としろうくんの顔かおを見みないようにして、上うえの方ほうを向むいてたこを見みながら、

「このたこは、お父とうさんに買かつてもらつたのだ。」と、いつて、答こたえました。

そういわれると、年郎としろうくんは、

「僕ぼくのたこによく似にているけれどなあ。」と独ひとごとり言ことをいうばかりで、どうすることもできなかつたのでした。

「きつと、あの子こ、うそをいつているのよ。」と、きよ子こさんは、こちらへくるといいました。

「僕ぼくと同おなじたこを町まちで買かつたんだらう。」と、年としろう郎ろうくんは、答こたえたのです。

この付つき近きんでは、この原はらっぱへきてたこを上げあげるよりほかにいい場所ばしょが、ありませんでした。だから町まちの子こ供どもも、そうでない子こ供どもも、みんなここへきてたこを上げあげたのであります。しかし、このことがあつてから、あまちのこ子こはどうかこの原はらっぱへ姿すがたを見みせなかつたのでした。

としろう
 年郎くんが、お母さんかあから、新しいたこを買かつてもらつて、
 原はらつぱで、いつもたこを持もつてくれるきよ子こさんと、そのたこを
 上あげて遊あそんでいると、いつかの子こが、だいぶ破やぶれた六角かくだこを持も
 つて、年郎としろうくんのそばへやつてきて、

「ごめんね、僕ぼくはうそをいっただ。このたこは飛とんできたのを
 拾ひろつたのだから、君きみにお返かえしする。」と、あやまつて、頭あたまを下さげ
 ました。

「やはり、僕ぼくのだったんだな。」

やさしい年郎としろうくんは、こうしてあやまられると、怒おこることが
 できませんでした。

「いいよ、僕ぼくは、新あたらしいのを買かつたから、このたこは、君きみにあげ

るよ。」と、いつて、そのたこを町の町の子供に与えたのです。町の町の子供は、きまりわるそうにして、そのたこをもらつてゆきました。それから、またその町の子は、毎日のようにこの原つばへきて、六角だこを上げるようになりました。年郎くんの新しい龍の字のたこは、たびたび一番だことなつて、大空からみんなのたこを見下ろしましたが、前にたびたび一番だことなつた六角だこは、どうしたのか、このごろは下の方でぐるぐるとまわつて、よく高くは上がりませんでした。

「あの子、たこを上げるのは下手ね。」と、きよ子さんが、いいました。

「あなたこは、癖があつて、むずかしいんだよ。僕が、教えてや

ろうよ。」

年としろう郎くんは、自じぶん分のよく上あがっているたこを、きよ子こさんに

持もたせておいて、

「君きみ、糸目いとめを上うえにしなればだめだ。」と、いいながら、町まちの子

方ほうへ飛とんでゆきました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 11」講談社

1977（昭和52）年9月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「小学文学童話」竹村書房

1937（昭和12）年5月

初出：「台湾日日新報」

1937（昭和12）年3月11日夕刊

※表題は底本では、「西洋《せいよう》だこと六一角《かく》だこ」となっています。

※初出時の表題は「西洋風と六角風」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2016年9月9日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waazora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

西洋だこと六角だこ

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>